

中心市街地R 5 4沿線まちづくり基本計画

平成30年1月

雲南市

目次

1. 計画策定の趣旨 (P 1～)	
(1) 策定の目的	1
(2) 計画の位置付け	3
(3) 策定経緯	4
(4) 計画対象区域	4
2. 現状と課題 (P 5～)	
(1) 定住	5
(2) 道路整備	5
(3) 市街地整備	5
(4) 観光、文化	5
(5) 景観	6
(6) 防災	6
3. まちづくりの基本構想 (P 6～)	
(1) 定住	6
(2) 道路整備	6
(3) 市街地整備	7
(4) 観光、文化	7
(5) 景観	7
(6) 防災	7
4. 地域別構想 (P 7～)	
(1) 里方地区構想	9
(2) 下熊谷地区構想	12
(3) 三刀屋地区構想	15
5. R54沿線まちづくりに向けて (P 23)	

1. 計画策定の趣旨

(1) 策定の目的

平成26年2月に策定した「雲南市都市計画マスタープラン」(以下、「都市マス」という。)並びに、平成27年3月に策定した「第2次雲南市総合計画」(以下、「総合計画」という。)では、木次町里方から三刀屋町三刀屋にかけて国道54号沿線地域に三刀屋木次インターチェンジ周辺を含む範囲を中心市街地エリアとして位置付けています。

この中心市街地エリアは、中国横断自動車道や国道、県道が結節する交通の要衝であることから、近年は国道54号沿線に公共施設の集積や大型店舗の出店も多く見受けられ、合併して誕生した雲南市の中心としての期待感は高まっています。

また、平成28年11月には、前述の中心市街地エリアの一部を計画区域として、活性化に資する様々な個別事業を盛り込んだ「雲南市中心市街地活性化基本計画」(以下、「中活計画」という。)を策定して国の認定も受け、平成33年度末までを目途に市街地の整備改善や経済活力の向上などを目指した取り組みを進めています。

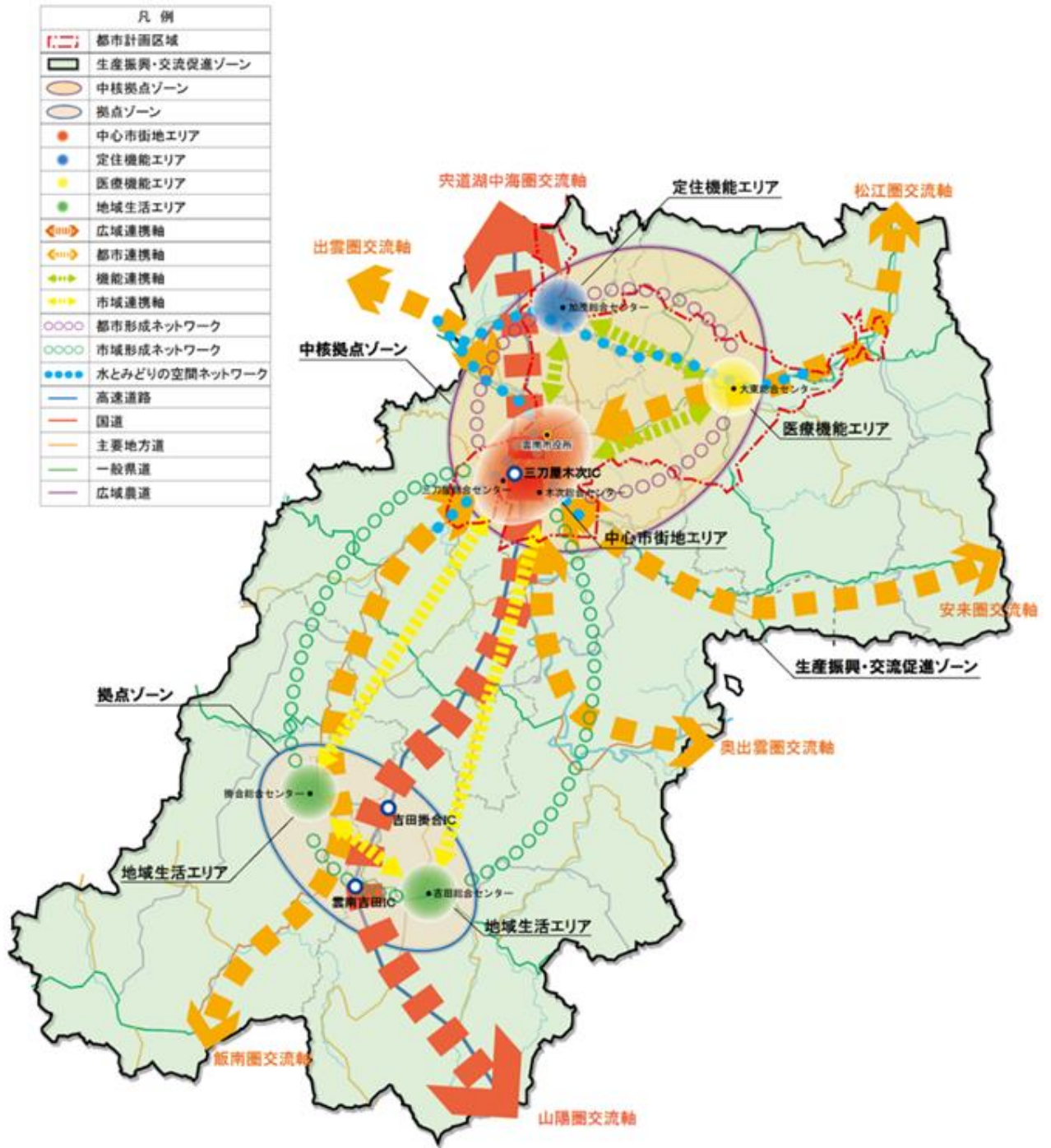
この先10年後、20年後、更に将来へ繋がるまちづくりの実現には、今後も進められる国道54号整備に併せて中心市街地エリアの活性化を図るとともに、道路整備を基軸とした周辺部とのネットワークの構築も重要です。

こうした道路や都市基盤の整備により中心市街地と周辺部における人と経済の好循環を図ることや、このエリアが果たす雲南市の中心としての役割を明確にすることを目的として、「中心市街地R54号沿線まちづくり基本計画」(以下、「本計画」という。)を策定します。

【関連計画】



【図1】 ※雲南市都市計画マスタープラン（将来都市構造図）引用

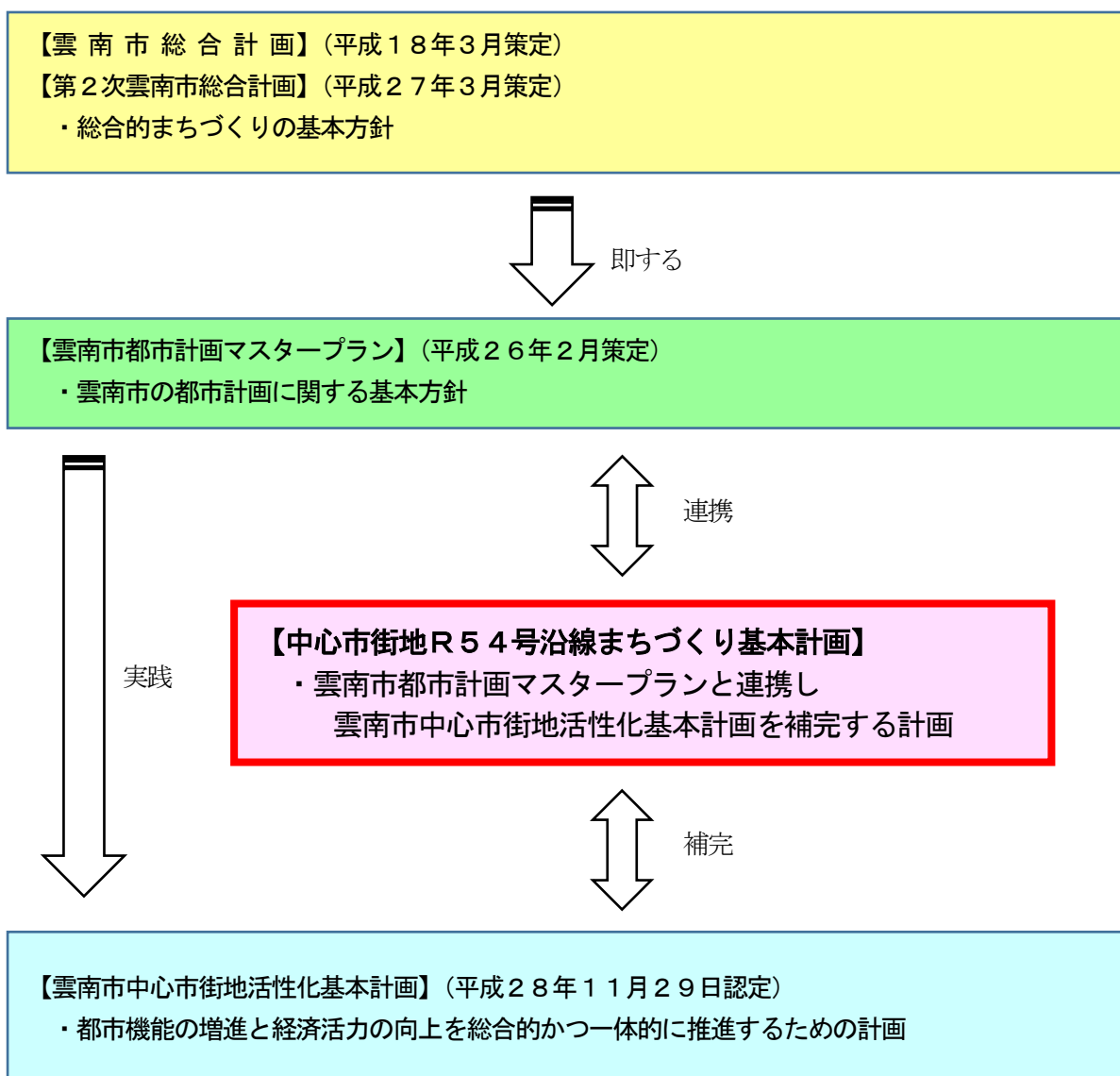


(2) 計画の位置付け

本市の中心市街地エリアには国道54号が縦断しており、これまでも当該エリアは国道54号の道路整備とともに発展してきました。これからのまちづくりも今後進められる国道整備を見据えて進めていく必要があります。

本計画は、総合計画に即して策定した都市マスと連携し、更には中活計画を補完する計画として位置付け、国道54号の整備に併せた将来の中心市街地エリアにおけるまちづくりの方針を定めます。

中心市街地R54号沿線まちづくり基本計画の位置づけ



(3) 策定経緯

平成28年11月に国の認定を受けた中活計画では、前述の中心市街地エリアのうち、国道54号沿線の商業連担地から雲南市役所、JR木次駅を含む130haの区域を中心市街地として設定し、平成34年3月までの期間内において活性化に向けた様々な個別事業に取り組むこととしています。

中活計画においては、個別事業の取り組み範囲を中心市街地区域として設定していることから、総合計画や都市マスにおいて位置付ける中心市街地エリアよりも狭く、本来の中心市街地としての役割を果たすためには不十分なところもあります。

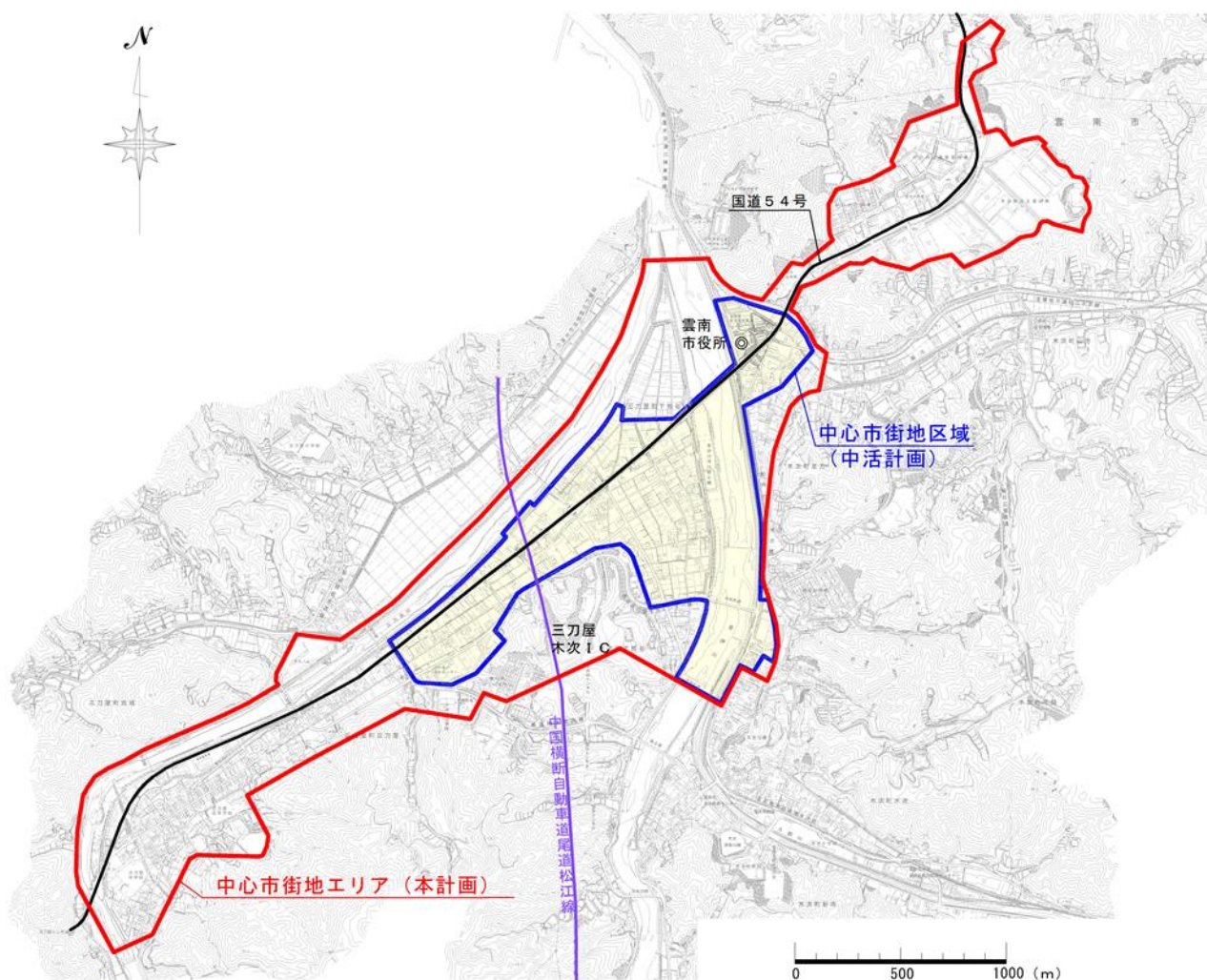
そこで、総合計画や都市マスにおける中心市街地エリアを具体的に設定し、中活計画の補完と都市マスの具現化、そして国道54号の整備促進を目指して本計画を策定します。

(4) 計画対象区域

本計画では、国道54号整備に併せた市街地整備や都市機能の集積誘導を促進し、賑わいと魅力あふれる本市の中核となる中心市街地エリアの形成を目指します。

本計画で設定する中心市街地エリアについては、【図2】に示すとおり国道54号の整備とともに土地利用の需要が高まっている木次町里方地区から三刀屋町三刀屋地区にわたる国道沿線を中心に、三刀屋木次インターチェンジ周辺を含むエリアとし、中活計画において設定する中心市街地区域を包含します。

【図2】中心市街地エリア



2. 現状と課題

(1) 定住

本市の人口は減少が続き、合併後の平成17年3月末時点での人口が45,870人であるのに対し、平成29年3月末時点で39,715人となっています。山間部などの地域、とりわけ旧町村の中心部から遠方の地域での減少傾向が強くなっていますが、旧町村の中心部や中心市街地エリア内では、緩やかな減少または横ばいの状況です。

本市の人口の減少については、自然減と社会減のそれぞれが高い数値を示しています。特に、社会減については、県内他市への転出の増加が見られます。このような社会情勢を背景としたニーズへの対応が人口の流出を止める手立てとなることから、これらに対する取り組みが課題となっています。

中心市街地エリアには、市役所、病院、福祉施設、商業施設、教育文化施設などが集中しており、市内で最も利便性の高い地域です。また、斐伊川と三刀屋川が交わる位置にあり、それぞれの河川堤防の桜並木が観光名所にもなっています。都市機能と自然環境が程よく調和した本市の中心市街地エリアは、暮らしやすく子育てに適した地区と言えます。本市を将来にわたる定住地として選択してもらうためには、特に子育て世帯に対する定住環境の整備を促進し、子供を産み育てる環境を充実させることが必要です。

(2) 道路整備

本市内には中国横断自動車道尾道松江線が縦貫し、三刀屋木次、吉田掛合、雲南吉田の3箇所のICがあり、県都松江や山陽圏とのアクセスを容易にしています。

中でも三刀屋木次ICは国道54号へと連結しており、交差点は中心市街地エリアの中央部であることから、市内で最も土地利用が進む地域でもあります。

また、中心市街地エリアには国道54号以外にも国道314号や、県道では出雲三刀屋線、稗原木次線、木次直江停車場線、松江木次線などの主要な道路も結節しており、中心市街地と周辺部を結ぶアクセス道路としての役割を果たしています。更に市道については生活道路としての役割も大きく、狭隘道路の改善や適切な維持管理が求められています。

島根県の方針として、「小さな拠点づくり」による持続可能な社会づくりを目指していることから、市内に30箇所ある交流センターを「小さな拠点」と位置付け、それらと中心市街地エリアを結ぶ国道54号の整備をはじめとする国道や県道の整備促進を図り、都市機能と生活拠点を結ぶ市道も含めたネットワークを構築することが必要です。

(3) 市街地整備

市内の中心地への人口移動が緩やかに進みつつあることから、雲南市の“顔”となる中心市街地エリアの活性化に取り組む必要があります。人口減少、少子高齢化社会の本格的な到来を見据えて、道路整備を基軸としたコンパクトで持続可能な都市構造への転換が求められています。

また、一方では無秩序な市街地の抑制も求められており、適正かつ計画的な市街地開発を推進していく必要があります。

(4) 観光・文化

中国自動車横断道尾道松江線の全線開通と、市内3箇所のICにより、山陽圏へのアクセス性が向上したことに伴い、開通前と比較して人(車)の往来が活発になりました。沿線の「道の駅たたらば壺番地」は、当初想定していた以上の利用者で賑わっていますが、この観光客が他の市内観光地や文化施設へ訪れること

は少なく、高速道路の利用により雲南市を通過しているのが現状です。

また、観光動態調査による市内での宿泊者数については、観光入込客のうち僅か1.5%程度に留まっています。雲南地域に纏わる神話や伝説をはじめとした観光資源、地域の伝統文化や歴史遺産など、雲南市のあらゆる魅力を発信するとともに、宿泊者の増加を目指した観光・文化施設の整備を推進していく必要があります。

(5) 景観

本市では、旧吉田町吉田の町並みの保存について取り組んでいます。これは、鉄山経営者である田部家とその田部家の許でたたら製鉄のまちとして栄えた企業城下町の面影を伝えるものとして、石畳風の道路整備、電線の地中化などに取り組み、民家も景観に配慮した外観となっています。また、平成28年4月25日付けで「出雲國風土記たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」と題した物語について、文化庁から日本遺産の認定を受けました。このことから、登録済み日本遺産の主な構成文化財である、上記にも記した「田部家土蔵群と吉田の町並み」と「菅谷たたら山内」については、特に景観に配慮した整備をしていく必要があります。また、西日本旅客鉄道が平成29年6月から運行を開始した周遊型豪華寝台列車「瑞風」の立ち寄り先に市内の4箇所が選定されており注目を集めていることから、立ち寄り先を中心として周遊コースの景観にも配慮していく必要があります。

(6) 防災

近年、記録的な豪雨、竜巻、台風など、甚大な被害をもたらす自然災害が全国で多発していることが契機となって、住民の安全・安心に対する意識はより一層の高まりをみせています。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を受けて、原子力災害に対する安全対策意識の高揚は特に著しいものとなっており、本市の一部が島根原子力発電所から30kmの圏内となることから、多様化と深刻化が進む災害リスクへの対応と、都市防災機能の向上へ向けた取り組みが必要とされています。

また、全国の災害事例によると、災害時の避難路や物資の緊急輸送道路の確保が困難となり、孤立する集落の問題が頻繁に取り上げられます。本市が策定する雲南市地域防災計画（風水害対策編、震災編、原子力災害対策編）に基づく住民への防災意識の啓発に努めるとともに、防災の観点からの道路整備も必要です。

3. まちづくりの基本構想

(1) 定住

近年は、以前の農地が宅地化され、民間の集合住宅や戸建て住宅の建設が進み、核家族化の傾向はありますが、世帯数は増加しています。子供を育てやすい環境の整備に併せ、市内の既存および新設の企業団地に誘致する企業との連携による雇用の促進を図り、更には道路などの都市基盤や商業集積地の整備により暮らしやすい中心市街地エリアを形成し、定住の促進を目指します。

(2) 道路整備

高速道路尾道松江線の開通により、人と経済の流れは活発化しています。市内へ人を呼び込み、経済の好循環へと結びつけるために道路網の基軸となる国道54号の整備を促進し、更には接続する主要道路および

観光道路などの整備や、市内を移動しやすい公共交通を確保することで、中心市街地を拠点とした道路ネットワークの構築を目指します。

(3) 市街地整備

本市の中心市街地エリアは、国道54号の整備とともに周辺の開発が進み、市内最大の商業集積地として発展してきました。道路整備の先行による低未利用地の効果的な活用を促進し、適切な都市機能の誘導と周辺の自然環境と調和した市街地整備を目指します。

(4) 観光・文化

斐伊川、三刀屋川が合流する地点に位置し、それぞれの堤防には桜並木が立ち並び、春には多くの観光客で賑わっています。また、市内全域には神話や伝説に纏わる施設や、遺跡や古墳などの観光地も数多く点在しています。道路や公共交通の整備に併せて宿泊施設の整備を進め、中心市街地を拠点とした観光ルートを確立し、交流人口の拡大を目指します。

(5) 景観

河川やみどり豊かな田園地帯に隣接し、背後地には山林も広がっています。道路整備をはじめとする市街地整備や都市基盤整備においては自然環境への配慮に努め、周辺の景観との調和を目指します。

(6) 防災

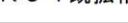
河川に挟まれる中心市街地は、過去には増水による被害を受けていますが、近年は、斐伊川上流の尾原ダムや下流部での放水路の整備により、河川の増水が極めて少なくなりました。また、島根県により内水排除施設の整備や排水ポンプ車の配備が行われ、市が保有する排水ポンプとの連携により増水時の早急な排水作業が可能となりました。水害も含め多様化する予測不能な災害に対応するためには、市民の防災意識を高めるとともに、災害時の避難路や緊急輸送道路の確保が必要であり、自主防災組織との連携と地域防災計画に基づく緊急用道路の整備を目指します。

4. 地域別構想

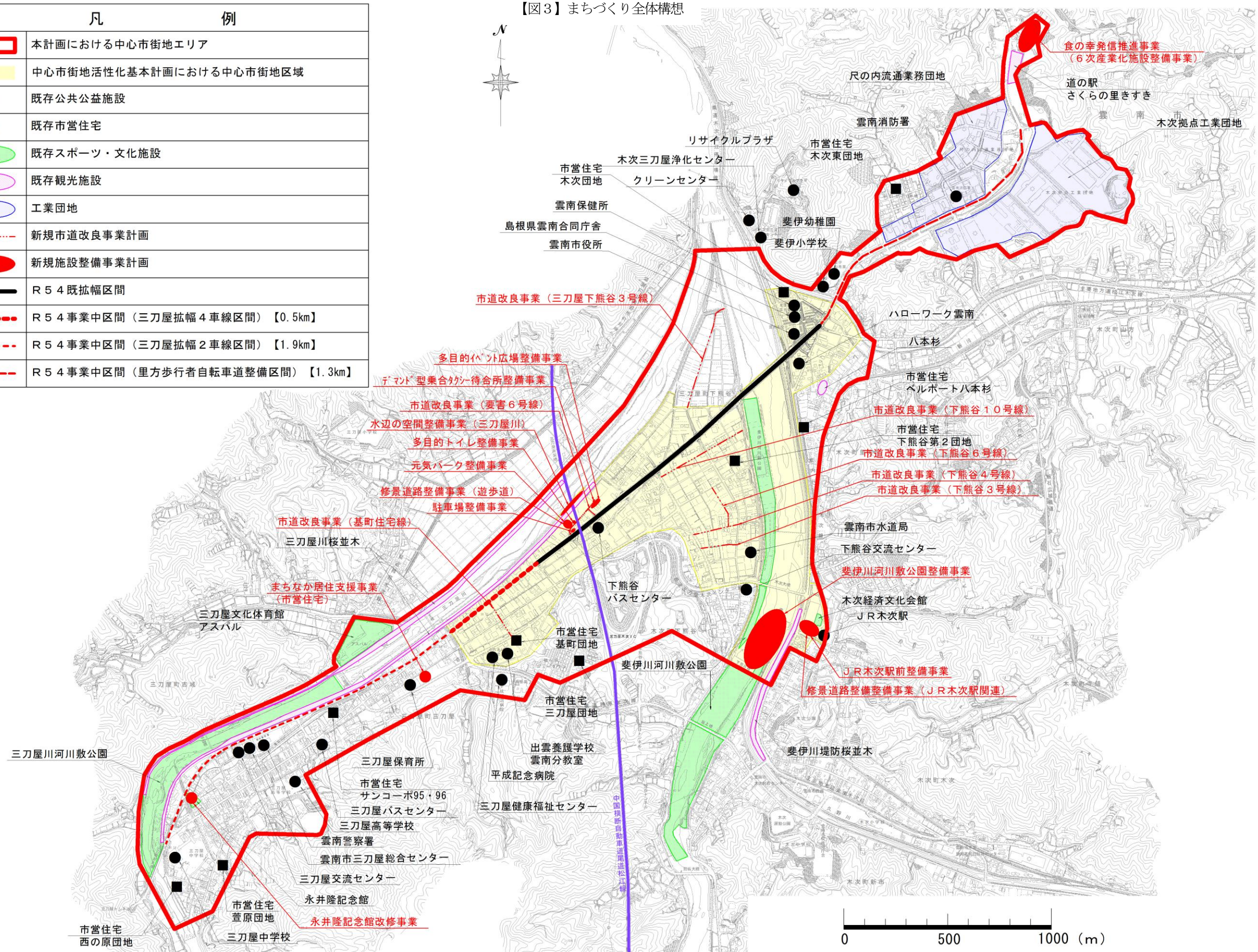
まちづくりの基本構想を踏まえ、国道54号沿線まちづくりの全体構想を【図3】に示します。更には、中心市街地エリアを「里方地区」、「下熊谷地区」、「三刀屋地区」の3地区に分割し、地域別の整備構想を具体的に整理し、中心市街地エリアの大動脈である国道54号の整備を見据えた効率的かつ効果的な個別事業の推進を図ります。

なお、以下の構想に掲げる個別事業は、概ね10年後までの実施を目指して進めますが、実施時期や財源、事業規模などについては都度協議し、本市の実施計画との整合性を図りながら実現を目指します。

※3地区の名称は本計画上の名称であり、大字などの地名とは必ずしも一致しません。

凡 例	
	本計画における中心市街地エリア
	中心市街地活性化基本計画における中心市街地地区
	既存公共施設
	既存市営住宅
	既存スポーツ・文化施設
	既存観光施設
	工業団地
	新規市道改良事業計画
	新規施設整備事業計画
	R54 既拡幅区間
	R54 事業中区間 (三刀屋拡幅4車線区間) 【0.5km】
	R54 事業中区間 (三刀屋拡幅2車線区間) 【1.9km】
	R54 事業中区間 (里方歩行者自転車道整備区間) 【1.3km】

【図3】まちづくり全体構想



(1) 里方地区構想

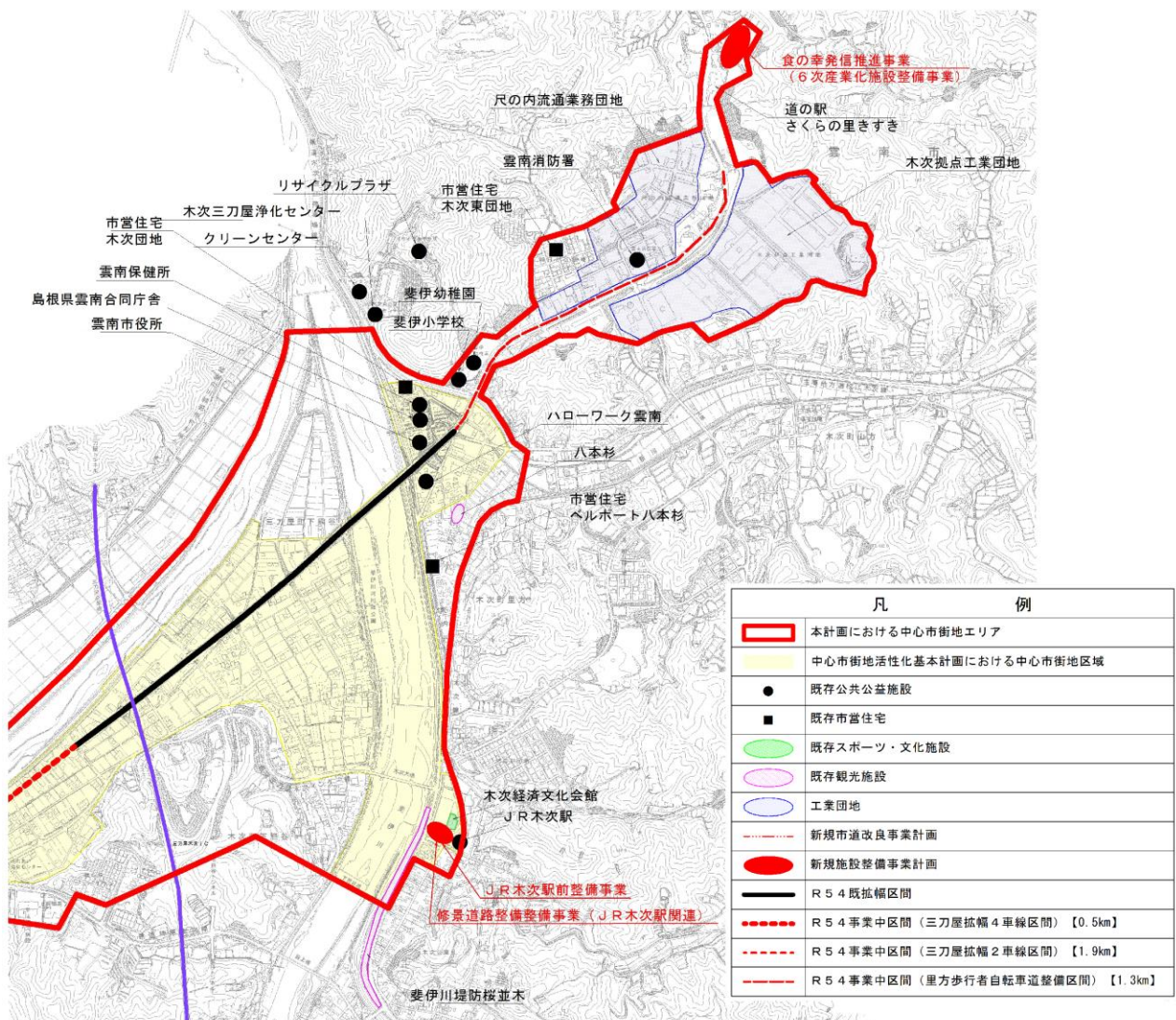
里方地区は、雲南市役所をはじめとする行政機関などが集積し、隣接する工業団地などには多くの企業が立ち並んでいます。JR木次駅や道の駅など観光客が訪れる施設も立地しており、市内外の人々が集まる昼間人口の多い地区です。

地区内の国道54号については、大半が4車線化され安全性の向上や渋滞の緩和に効果が表れていますが、多くの企業が建ち並ぶ地区北東側には未整備の区間もあり、景観に配慮した安全性の高い国道への整備を望む声が寄せられています。

この地区の構想としては、【図4】に示すとおり公共交通を利用する観光客の獲得に向けたJR木次駅周辺の整備や、道の駅に隣接した新たな観光施設の整備を掲げ、既存の観光施設と連携した交流人口の拡大を目指します。

また、国道54号の4車線化が進まない区間については、交通安全の確保を目的に国土交通省による暫定的な歩行者自転車道整備が進められており、移動しやすい道路の確保とともに歩行者や自転車利用者に優しい道路として整備を促進します。

【図4】



【計画事業と事業の目的】

・ J R木次駅前整備事業

J R木次駅前のバスロータリーを整備するとともに、イベント利用も考慮した多目的駐車場を設置し、一体的な駅前空間を整備します。利用者の安全性と利便性を高めます。

・ 修景道路整備事業（J R木次駅関連）

J R木次駅前整備に併せ、駅へのアクセス道路を整備します。商業施設や交通施設を案内するサイン整備や、道路の美装化を図ります。中心市街地への来訪者のうち、特に歩行者の安全性や回遊性を高めます。

J R木次駅周辺 現況



・ 食の幸発信推進事業（6次産業化施設整備事業）

食関連産業と農業振興の強化を目的に6次産業化施設を整備します。道の駅に隣接して整備し、両施設が連携することにより、「見て」、「買って」、「食べて」を体験できる食の観光施設を実現し、更なる交流人口の拡大を図ります。

道の駅「さくらの里きすき」周辺 現況



【関連事業（国土交通省）】

・国道54号里方歩行者自転車道整備事業

地区の北東側に計画されている歩行者自転車道整備により、多くの企業や公共施設が建ち並ぶ里方地区の安全性の向上が期待されます。国土交通省と連携して事業を推進し、早期完成を促します。

国道54号里方歩行者自転車道整備事業 現況（整備中）



・やまなみ街道サイクリングロード

国土交通省により、尾道市から雲南市を経由し松江市までの間、国道54号と184号を軸としてサイクリングロードの整備が進められています。地域の活性化と交流人口の拡大を目指し、国土交通省や関係機関と連携して事業を推進し、早期完成を促します。また、利用者への情報発信によりリピーターの獲得を促進します。

やまなみ街道サイクリングロード 現況（整備済み箇所）



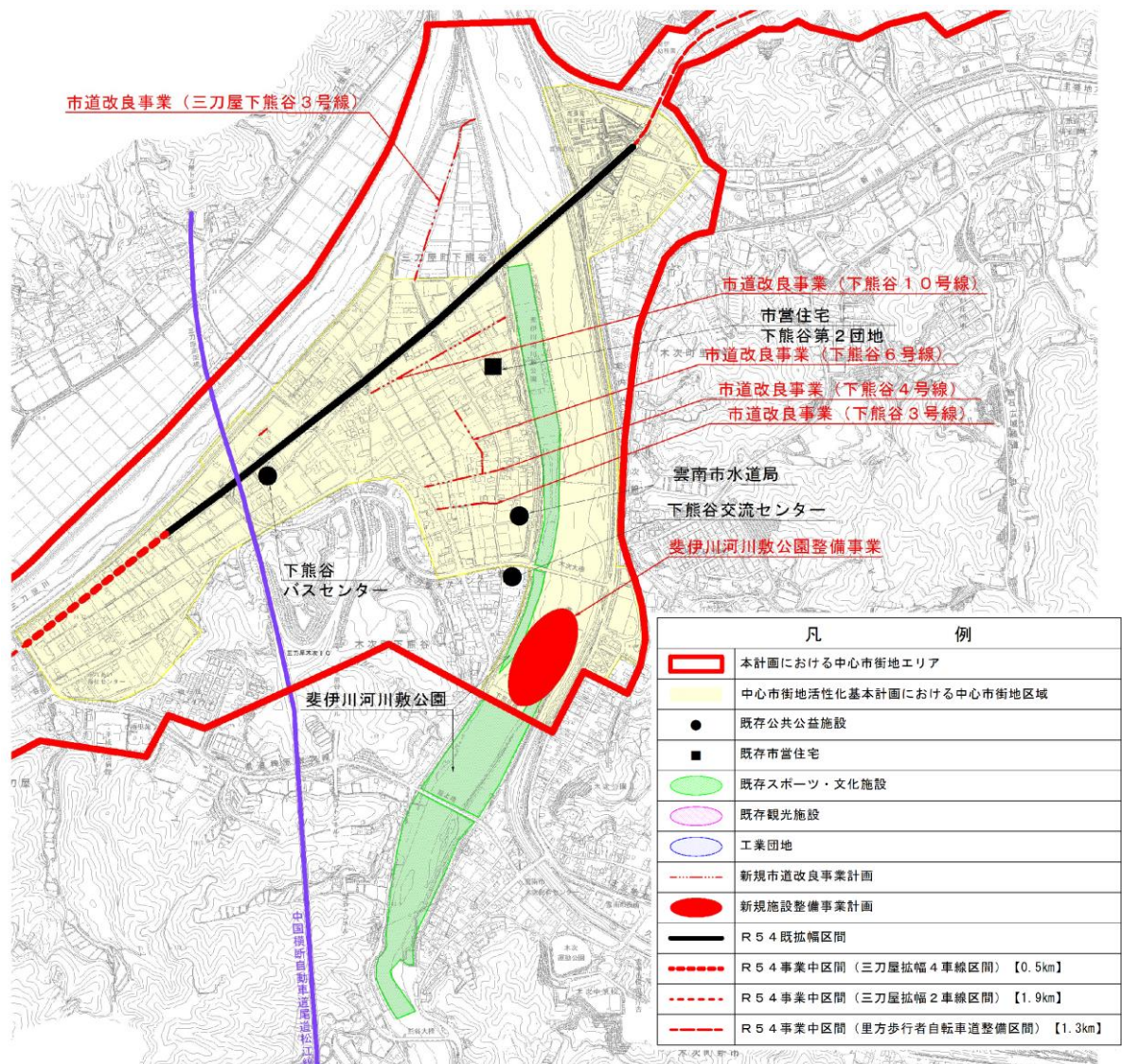
(2) 下熊谷地区構想

一級河川斐伊川とその支流である三刀屋川が合流する地点にある下熊谷地区は、以前は比較的優良な農地が広がり、水稻や果樹栽培などが行われていましたが、地区を縦貫する国道54号や周辺の道路整備とともに戸建て住宅や集合住宅の建設が進み、必然的に商業店舗も多く立ち並ぶ地区となりました。

現在の国道54号は、更なる整備として拡幅事業が進められており、地区内においては4車線化が完了し中心市街地の活性化を後押ししています。

この地区の構想としては、【図5】に示すとおり4車線化された国道54号周辺の市道と斐伊川河川敷公園の整備促進を掲げ、秩序ある開発促進と住みやすく暮らしやすい地域の形成を図り、定住人口の増加を目指します。

【図5】



【計画事業と事業の目的】

・斐伊川河川敷公園整備事業

商業エリアへの来訪者や近隣住民が川に親しんで、心を癒す空間として整備します。河川敷に駐車場付き多目的広場や簡易グラウンドを整備し、イベントやレジャー、キャンプ等の年間通じた利用を図り、子供から高齢者まで幅広く楽しめる空間として整備します。

斐伊川河川敷公園 整備イメージ



- ・市道改良事業（下熊谷3号線）
- ・市道改良事業（下熊谷4号線）
- ・市道改良事業（下熊谷6号線）
- ・市道改良事業（下熊谷10号線）

中心市街地内のアクセス道路として市道を改良し、利便性と安全性の向上を図ります。また、災害などの有事の際に、避難や救助が円滑に行える緊急道路としての機能の向上も図ります。

下熊谷3号線 現況



下熊谷4号線 現況



下熊谷6号線 現況



下熊谷10号線 現況



・市道改良事業（三刀屋下熊谷3号線）

斐伊川と三刀屋川に挟まれた低未利用地に市道を新設することで秩序ある開発を促し、定住住宅や商業店舗の立地を誘導します。また、災害などの有事の際には、避難や救助が円滑に行える緊急道路として確保します。

三刀屋下熊谷3号線 現況



【関連事業（国土交通省）】

・やまなみ街道サイクリングロード（再掲）

国土交通省により、尾道市から雲南市を經由し松江市までの間、国道54号と184号を軸としてサイクリングロードの整備が進められています。地域の活性化と交流人口の拡大を目指し、国土交通省や関係機関と連携して事業を推進し、早期完成を促します。また、利用者への情報発信によりリピーターの獲得を促進します。

やまなみ街道サイクリングロード 現況（整備済み箇所）



(3) 三刀屋地区構想

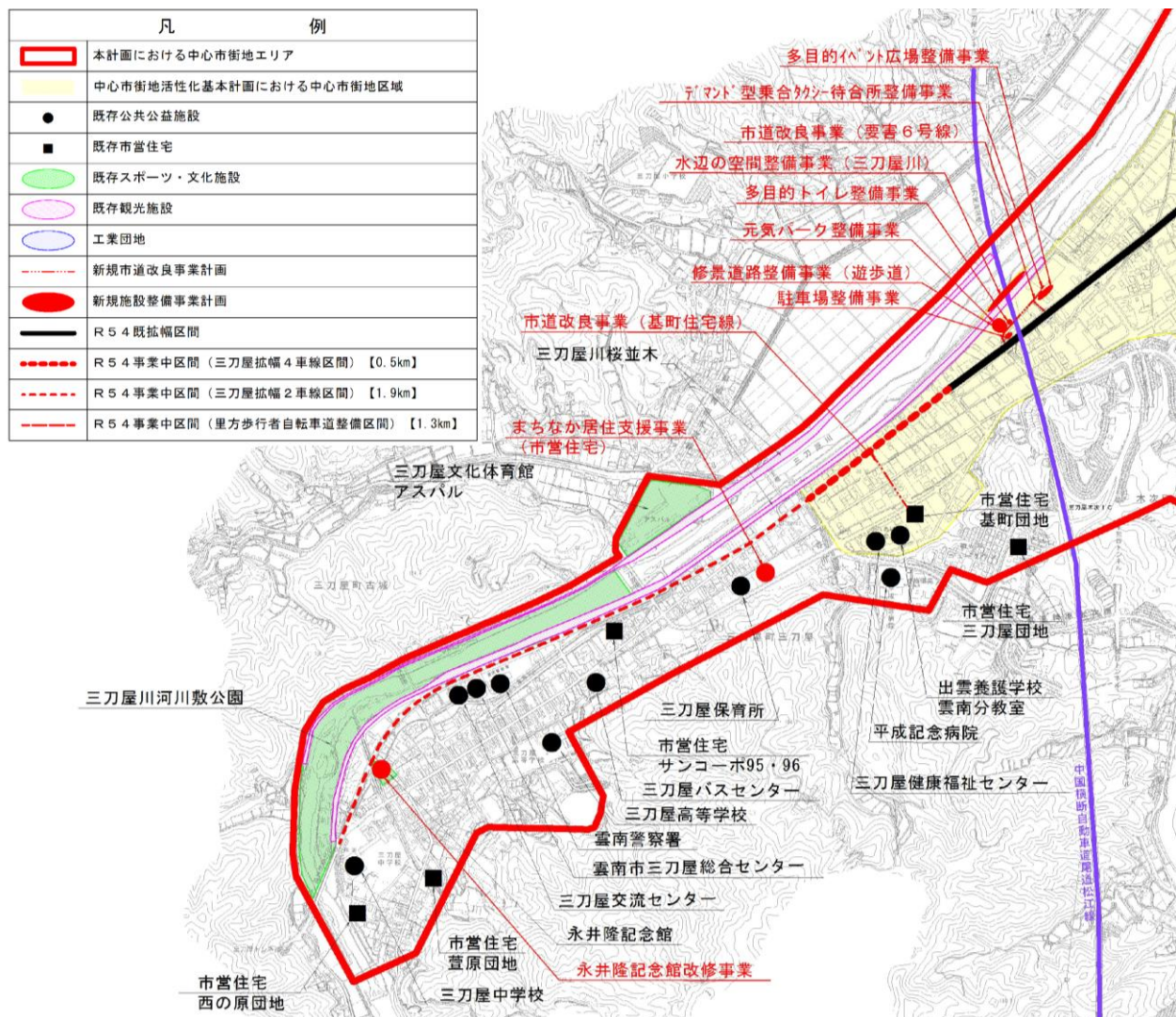
中国横断自動車道尾道松江線と国道54号が結節する三刀屋木次IC付近から南西に向かう三刀屋地区は、交通の要衝であるとともに公共施設や文化施設、市営住宅や学校が建ち並ぶ地区であり、旧三刀屋町の既成市街地を包含する昼夜ともに人口の多い地区です。

三刀屋木次ICから国道54号へ降りた地点から広島側へ向かつては、国道54号の整備が今後も計画されており、中心市街地の活性化とともに渋滞緩和と交通事故防止に期待がかかります。

この地区の構想としては、【図6】に示すとおり三刀屋木次IC周辺における広場や駐車場整備、市道改良などの市街地整備をはじめ、市営住宅の建設や文化施設の改修を掲げ、利便性の向上と暮らしやすさを追求し、定住人口の増加を図ります。更には、既存の文化施設や観光施設を活かしたイベントの開催等により、市外からの誘客や高速道路利用者の立ち寄りを促し、交流人口の増加も図ります。

また、事業中区間である国道54号の整備については、安全性と利便性を兼ね備えた拡幅整備を促進し、国土交通省と連携して中心市街地を縦貫する基幹道路の早期整備完了を推進します。

【図6】



【計画事業と事業の目的】

・多目的イベント広場整備事業

様々なイベントが実施できる広場を整備します。来訪者のイベント参加や、近接した商業施設への誘客を促し、消費行動の活発化を図ります。

イベントイメージ



・デマンド型バス・乗合タクシー待合所整備事業

既存のスーパーマーケット敷地内に、デマンド型バスや乗合タクシーの待合所を整備します。高齢者等がゆっくりバスやタクシーを待つことができ、円滑に利用できる施設として整備し、公共交通の利用を高めます。

デマンド型乗合タクシー利用状況



・市道改良事業（要害6号線）

商業集積地へのアクセス道として市道を改良し、安全性と利便性を高めます。また、災害などの有事の際に、避難や救助が円滑に行える緊急道路としての機能の向上も図ります。

市道要害6号線 現況



・水辺の空間整備事業（三刀屋川）

来街者や近隣住民が川に親しみ、心を癒す空間として整備し、景観にも配慮します。近接する商業施設への誘客を促すとともに滞在時間を長くし、消費行動の活発化を図ります。

水辺の空間整備事業 計画地



・元気パーク整備事業

商業集積地の一面に、遊具等を備えた広場を整備し、子供から高齢者まで幅広く楽しめる空間を創出します。憩いの場、交流の場を提供することで、近接する商業施設への誘客を促すとともに滞在時間を長くし、消費行動の活発化を図ります。

・修景道路整備事業（遊歩道）

商業集積地から三刀屋川桜並木へアクセスするため、元気パークに併せて遊歩道を整備します。河川環境の活用により近接する商業施設への誘客を促すとともに滞在時間を長くし、消費行動の活発化を図ります。

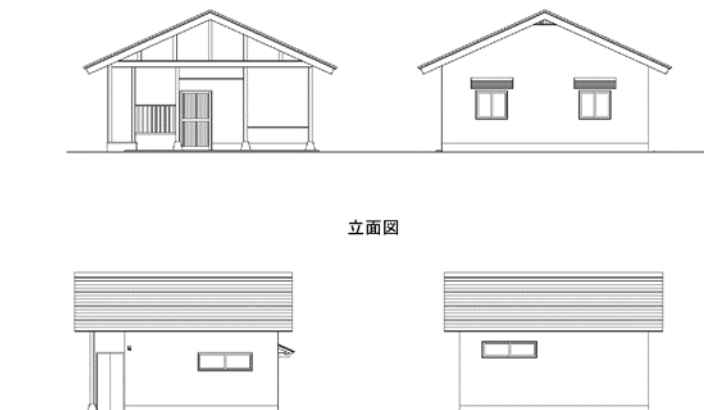
元気パーク、修景道路 整備イメージ



・多目的トイレ整備事業

元気パークに隣接してバリアフリーに対応した多目的トイレを整備します。いつでも利用できるトイレとして整備し、広場や周辺施設の利用率向上を図ります。

多目的トイレ整備イメージ



立面図

・ 駐車場整備事業

商業集積地付近に公共の駐車場を整備します。広場や周辺施設の利用率向上を図ります。

駐車場整備イメージ



・ 市道改良事業（基町住宅線）

中心市街地内のアクセス道路として市道を改良し、利便性と安全性の向上を図ります。また、災害などの有事の際に、避難や救助が円滑に行える緊急道路としての機能の向上も図ります。

市道基町住宅線 現況



・まちなか居住支援事業（市営住宅）

生活利便性の高い中心市街地エリア内に市営住宅を建設し、定住促進による人口増加を図り地域経済の活性化を図ります。

市営住宅整備イメージ



・永井隆記念館改修事業

雲南市三刀屋町は、放射線医学の研究と原子爆弾の被爆により白血病に侵されながらも「長崎の鐘」や「この子を残して」などの名作を著し、「平和を」の願いを全世界に訴え続けた永井隆博士のふるさとです。博士の人生、功績、思想など多面的にその人物像を伝えるとともに、平和教育の拠点として建設した記念館を、老朽化に伴い建て替えます。「平和を」「如己愛人」の精神を感じ、自ら学ぶことができる施設として整備を進め、核兵器廃絶と恒久平和を地区内外からの来館者へ訴え、交流人口拡大の一役も担います。

永井隆記念館 現況



【関連事業（国土交通省）】

・国道54号三刀屋拡幅

三刀屋地区のほぼ全域にわたり、国道54号の拡幅が計画されています。国道54号は、三刀屋地区も含めた中心市街地を縦貫する幹線道路であり、交通安全はもとより市民生活の最重要路線です。

4車線区間として計画されている約500mの整備効果としては、これまで右折車両などが引き起こしていた渋滞の解消および交通事故の減少など、都市施設が集中する市街地中心部における安全性の向上が期待されます。また、幅広い歩行者自転車道の整備は、小中学生、高校生の安全な通学路の確保に寄与します。

2車線区間として計画されている約1900mは、学校や警察、観光・文化施設が近く歩行者や自転車利用者も多く通行する区間です。車道幅により緊急車両の進路確保やサイクリストの円滑な交通処理が図られ、運転者の快適性の確保に繋がります。また、併せて歩行者自転車道が整備されることにより、通勤・通学などにおける利用者の安全性と利便性の向上が図られます。更には、三刀屋川河川敷公園および三刀屋川桜並木と並行していることから、堤防と歩道を一体的に利用する将来構想もあり、観光地の魅力アップに期待が高まります。

こうした基幹道路の整備は、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりの実現にも寄与し、中心市街地エリアの活性化や定住・交流人口の増加など、様々な効果が期待できます。

国道54号三刀屋幅4車線区間 現況（未整備）



・やまなみ街道サイクリングロード（再掲）

国土交通省により、尾道市から雲南市を經由し松江市までの間、国道54号と184号を軸としてサイクリングロードの整備が進められています。地域の活性化と交流人口の拡大を目指し、国土交通省や関係機関と連携して事業を推進し、早期完成を促します。また、利用者への情報発信によりリピーターの獲得を促進します。

やまなみ街道サイクリングロード 現況（整備済み箇所）



《掲載事業一覧表》

事業名称	地区名	事業主体
J R木次駅前整備事業	里方地区	雲南市（建設部）
修景道路整備事業（J R木次駅関連）	里方地区	雲南市（建設部）
食の幸発信推進事業	里方地区	雲南市（産業観光部）
国道54号里方歩行者自転車道整備事業	里方地区	国土交通省
やまなみ街道サイクリングロード整備事業	里方地区	国土交通省
斐伊川河川敷公園整備事業	下熊谷地区	雲南市（建設部）
市道改良事業（下熊谷3号線）	下熊谷地区	雲南市（建設部）
市道改良事業（下熊谷4号線）	下熊谷地区	雲南市（建設部）
市道改良事業（下熊谷6号線）	下熊谷地区	雲南市（建設部）
市道改良事業（下熊谷10号線）	下熊谷地区	雲南市（建設部）
市道改良事業（三刀屋下熊谷3号線）	下熊谷地区	雲南市（建設部）
やまなみ街道サイクリングロード整備事業【再掲】	下熊谷地区	国土交通省
多目的イベント広場整備事業	三刀屋地区	雲南市（建設部）
デマンド型バス・乗合タクシー待合所整備事業	三刀屋地区	雲南市（建設部）
市道改良事業（要害6号線）	三刀屋地区	雲南市（建設部）
水辺の空間整備事業（三刀屋川）	三刀屋地区	雲南市（建設部）
元気パーク整備事業	三刀屋地区	雲南市（建設部）
修景道路整備事業（遊歩道）	三刀屋地区	雲南市（建設部）
多目的トイレ整備事業	三刀屋地区	雲南市（建設部）
駐車場整備事業	三刀屋地区	雲南市（建設部）
市道改良事業（基町住宅線）	三刀屋地区	雲南市（建設部）
まちなか居住支援事業（市営住宅）	三刀屋地区	雲南市（建設部）
永井隆記念館改修事業	三刀屋地区	雲南市（教育委員会）
国道54号三刀屋拡幅	三刀屋地区	国土交通省
やまなみ街道サイクリングロード整備事業【再掲】	三刀屋地区	国土交通省

5. R54沿線まちづくりに向けて

雲南市の中心市街地エリアは、これまでも道路の整備とともに発展してきました。市街地の施設誘導には道路の整備が必要不可欠であり、今後のまちづくりにおいても最優先な事業と言えます。都市マスでも掲げるように、エリア内の市道整備はもとより、エリアに結節する県道の適切な維持や幹線道路である国道54号の拡幅整備など、道路ネットワークの構築が今後のまちづくりの重要なポイントであることは間違いありません。

道路整備がもたらす効果としては、沿線への商店や施設の誘導、移動の円滑化や安全性の確保による生活利便性の向上、これらによって暮らしやすく住み易いまちづくりが進み、人口減少や経済流出の抑制が見込めます。加えて県道や国道は、災害の避難路、支援物資などを運ぶ緊急輸送道路としての重要な役割もあり、早急な整備促進は市民の暮らしに安心感を与えます。

また、国道54号を軸として平成28年度から行われている「やまなみ街道サイクリングロード」の整備には、ツーリングやサイクリング客を含めた来街者の増加と、沿線の賑わい再生や「道の駅」の活性化を期待しています。

これらの道路整備の推進に併せて、本計画に掲げる観光、文化施設の整備、定住環境や市民の憩いの場を整備するとともに、民間商業の活性化に関する事業や公共交通に関する事業などの中活計画に掲げる事業を着実に実施します。そして、20歳代、30歳代を中心とした子育て世代の市外流出の抑制と雲南市内への移住と定住を促進し、併せて地域経済の活発化と好循環を促し、雲南市が総合計画に掲げる「人口の社会増への挑戦」に向けて取り組みます。

中心市街地R54沿線まちづくり基本計画

平成30年1月

雲南市 建設部 都市計画課

〒699-1392

島根県雲南市木次町里方521-1

TEL : 0854-40-1064

FAX : 0854-40-1069

e-mail : toshikeikaku@city.unnan.shimane.jp